------*もくじ*------

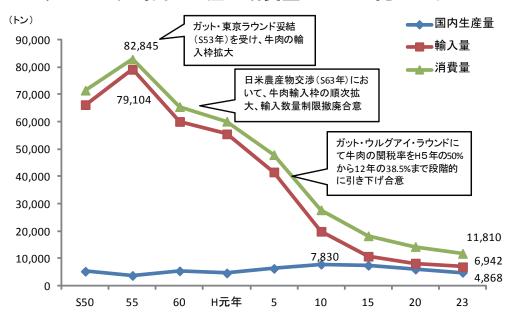


No. 113 2014. 1

(株) よかネット

Ν	ETWORK
	香陵校区まちづくりビジョン、 まちづくりルールづくりに向けて~その1
	平成 25 年度 福岡県自主防災組織設立促進モデル事業5
	全3回のワークショップを振り返って
	地域ゼミ報告 (NPO)グリーンシティ福岡の取り組み7
	第1回公共施設マネジメント研究会 活動報告9
見	・聞・食
	へいちくフェスタ 2013 に参加しました!10
近	況
	我が女房の実家の集落にも鹿が現る12
	有田・松尾酒造場で購入した酒燗器でぬる燗酒を楽しむ13
	生活の豊かさ13
	マンションの理事長をやっています14
	ソーシャルメディアを活用した観光情報発信15
	健康診断の結果16
	芦屋基地航空祭に行ってきました17
書	評 at/n
	幸せに暮らす集落 ~鹿児島県土喰集落の人々と共に~18

# ●午年ということで、馬肉の生産・消費量について見てみました



日本国内の馬肉消費量は昭和50年と比較して7分の1に落ち込んでおり、その内訳を見ると、特に輸入量が激減しています。このことについて県内の精肉店に話をお聞きしたところ、以前は外国産の馬肉が安く、牛肉が高かったので、輸入馬肉がソーセージやハムなどの加工肉に使われた他、馬刺し用の肉としても出回っていました。しかし、牛肉の関税引き下げによる輸入増加・価格下落や食肉の規制強化により、輸入量・消費量が減少したそうです。

一方で国内の生産量を見ると、年ごとの増減はあるものの、20年前とほぼ同じ規模の生産が行われており、 国内馬肉の主な用途である馬刺しの人気は衰えずといったところです。

# 香陵校区まちづくりビジョン まちづくりルールづくりに向けて~その1

山田 龍雄

昨年から、私が住んでいる香陵校区でまちづくりビジョン、ルールづくりに向けての活動に 取り組んでいる。その活動のきっかけと内容、 目標などについて報告したい。

### ●計画的に開発された良好な住宅地

香陵校区は、都市高速道路香椎浜 IC、イオンショッピングセンターから道路を挟んで西側の一角にある。その香陵校区を含む香椎浜地区一帯は、昭和48年ごろから箱崎埋立地区の業務地(昭和44年からの埋立地)に呼応した臨海住宅地として開発されたところである。

当時の福岡市の人口増に対応するための住宅 の受け皿として1万世帯、人口3万人のシーサ イドタウンとして計画された。

香椎浜の埋立地は、埋立竣工から3年後の昭和54年ごろから市営住宅、福岡市住宅供給公社、県営住宅等の公的事業体をメインに住宅が整備されてきた。特に本校区は計画的に開発された地区であるため、道路、公園等の基盤が整った住宅地となっており、校区内には2箇所の地区公園が整備されている。さらに昭和50年代後半には地場のデベロッパーである福岡地所が用地を購入し、昭和60年代から分譲マンション開発を始める。世界的建築家である磯崎新氏を



箱崎地区と香椎地区の埋立エリア

デザインディレクターとし、世界の建築家の設 計によるユニークな分譲マンション群~ネクサ スワールドプロジェクトをスタートさせ、平成 2年にネクサスワールドが完成する。このプロ ジェクトの個々の建物は、それぞれ個性溢れた デザインとなっているものの、高さを抑え、壁 面線のセットバック(場所によっては5m以上) や壁面線の統一が図られているため、街並み は違和感はなく、2重の並木道を歩くと心地よ い。その後の福岡地所の分譲マンション開発で も、セットバック部分は歩道と敷地とが一体化 され、オープンスペースとしても開放されてお り、優れた空間を演出している。また、本校区 では開発予定の分譲マンションがネクサスワー ルドの隣接地であったことから、その開発にお いてはデベロッパーに壁面線の統一や周辺に調 和したデザインにするなどを要請し、計画変更 をしていただいたという経緯もあった。

現在、本校区は分譲マンション、市営住宅、 九大の国際交流会館(留学生のための住宅あり)、雇用促進住宅など共同住宅のみで構成された人口約4,600人の地域である。しかしながら、住宅が立地しはじめて30数年を経過した現在、児童数は年々減少している。

このような良好な共同住宅地で、今、何故ま ちづくりビジョン・まちづくりルールに取り組 まなければならないのかと不思議に思われるで あろう。

事の発端は、一昨年度に起こったマンション 問題であった。

# ●開発者の善意のみでは良好なまち並みや住環境 を保てない

私は、3年前から香陵校区自治協議会(通称: あすねっと香陵)の下部組織である「安全安心 部会」の大竹部長からお呼びがかかり、「安全・ 安心マップ」作成のお手伝いをしてきた。今年

香陵校区

も7月に住民参加のもと、校区内の安心・安全 点検のためのワークショップを行い、マップ作 成は4回目の更新を行っている。

このような関係もあって、一昨年の1月に大 竹部長から「校区内で開発予定の分譲マンショ ンが、周辺環境になじまない計画となっている。 事業主との交渉にアドバイザーとして参加して くれないだろうか」との打診があった。当自治 協議会では、児童数も減少傾向にあったことか ら、マンション計画自体は大歓迎なのだが、こ のマンションの計画が①敷地南面に13階建て の高さのものが建つこと、②東側の歩道面が狭 く、そこに駐車場出入り口を集中させている上 にセットバックしておらず歩行者や自転車通行 で問題となること、③ネクサスワールドからの 壁面線が統一されず、街並みとして連続性がな くなること、④外部空間が開放されていないこ となど、街並みや空間構成において、周辺環境 に配慮されていないので、自治協議会として計 画変更の要請を行っていた。

私が相談を受けたとき、既に実施設計段階に 入っていたようであり、事業主を納得させるの は相当難しいのではないかと思った。

自治協議会では、デベロッパーに対して計画変更要請書を6回提出したり、「福岡市建築紛争の予防と調整に関する条例」に基づき、市の建築指導部に相談にのっていただいたりしながら交渉にあたったが、残念ながら、東側の歩道部分の30cmのみのセットバックと駐車場の出入口にあたる部分10m幅を2m程度セットバックといったところでタイムアップ、妥結してしまった。

開発者の立場では建築基準法上、何ら抵触していない開発であり、近隣住民への説明をすれば開発可能なものであり、住民の意向をくみ取る必要はない。しかしながら、過去の開発では事業主に街並み等に配慮していただいたという経験もあったことから、住民側としては法的な規制はないものの、もう少し住民側の要望を取り入れて、周辺環境に配慮した計画として欲しかったという思いもあった。このような経緯で建設されているマンション開発に対しては何と



共同住宅が建ち並ぶ香陵校区 なく後味が悪い。

# ●将来、校区内では大規模な土地利用転換が行われる可能性がある

香陵校区内には、九州大学国際交流会館、西 鉄香椎浜営業所、雇用促進住宅など、将来、土 地利用転換が行われる可能性のある大規模用地 がある。特に九州大学国際交流会館用地は、伊 都キャンパスへの全面移転に伴い、時期は未定 であるが近い将来、移転が予定されている。

将来の土地利用の転換に備え、某マンション 開発のようなことを繰り返さないようにするためには、開発者側にも納得して協力していただけるだけの地域のまちづくりビジョンやルールが必要なのである。

新たな開発に際しては、校区のまちづくりルールに沿ったものにしてもらう担保を確保したい。このようなまちづくりルールづくりの策定について福岡市の住宅都市局都市づくり推進部地域計画課に相談に伺った。

法的な担保を確保するには地区計画が最も望ましいのであるが、校区全体の事業主、所有者に対して全員合意などは、到底不可能であるし、近い将来に迫っている土地利用転換に間に合いそうにもない。

そこで、開発者との事前協議を後押しする制度「福岡市地域まちづくり推進要綱」に基づいたまちづくりビジョン、ルールづくりを目指すこととした。

この制度は、昨年度改正され、事前協議に必要な土地利用、建物に関するルールなどを福岡市に登録できるものであり、福岡市HP等にも



壁面線がセットバックし、街並みの統一が図られて いる

公表されることから、早い段階で開発デベロッパーとの事前協議ができるものである。

この制度は、条例ではないことから、計画に 従わなかった場合の勧告や罰則などはなく、担 保性は弱いものである。しかし事前協議が早い 段階で実施できるというのは一歩前進である。

また、まちづくりルールを決める組織(香陵校区まちづくり協議会)には、自治協議会の役員の方々に加え、校区内の専門家の人、主な法人地権者の担当部局(㈱西鉄、九州大学)にも入ってもらっている。我が校区が、新たなこの制度の第1号ということ、また、共同住宅のみの地区でのルールづくりということで福岡市担当課でも注目されている。

# ●先進事例を学ぶこと、まちを知ることから始める 昨年度は、6~7月ごろから「福岡市地域ま ちづくり推進要綱」に基づいたまちづくりビ ジョン、ルールづくりを実施していくための手 続きに時間をとられ、本格的な活動は8月に入っ てからとなった。

第1回目は昨年度の9月8日に実施。長年、 関西方面でまちづくりのルールづくりのアドバイザーをしてこられた石本幸良氏(京・まち・ねっと代表)をお招きし、「香陵校区のまちづくりの展開に向けて」と題して、先進事例を交えながらまちづくりルールについて話をしていただいた。

石本氏の話のなかで、①まちの良いところを 共有し、「香陵まち物語」を作ること、②ルー ルづくりが先行するのでなく、まちのビジョン づくり(何を大切にしたまちとしていくか、何



歩道とセットバック部分とが一体化され、ゆとり空間となっている

を守っていくのかなど)を共有していくこと、 ③皆さんが納得するルール、事業者や住民にも わかりやすいルールづくり、④コミュニティの 活性化を図るため、住民みんなが楽しめる取組 みをはじめるなど、示唆に富んだ話をしていた だいた。

第2回目は10月14日に「香陵校区の魅力を 再発見してみませんか?」というテーマでまち 歩きワークショップを実施した。

参加者 15 名を 2 つのグループに分け、北回 りコースと南周りコースでまち歩きをしていた だいた。まち歩きでは校区内に居住する建築家 とアーバンデザインの専門家の方にもご同行していただき、街並みや住環境のポイントについて解説していただきながら、まち歩きを行った。

まち歩きでは、①緑の多い街であることを再 認識し、どこの道路でも2列の並木が続いてい ること、②まちなかでは所々にオブジェが置か れており、面白い、③壁面線がセットバックし ており、歩道は歩きやすいなど住環境面での魅 力を再発見したものの、心配なこととしては① 大型マンションの駐車場出入口での歩行者の安 全性、②道路の凹凸部、③最近よく横断すると ころで横断歩道がないなど交通面での不安点が 指摘された。また、参加された女性の方々から は、「公園や広場などに子供たちだけに通じる 愛称がある」「校区内の保育園内にはリンゴの 木があり、ジャムを作っている」「スペイン棟 の1階にあるコンビニでは野菜が販売されてい る」など、男性陣ではなかなか得ることができ ない貴重な情報を提供していただいた。



専門家に解説してもらいながらのまち歩き点検

第3回目は、2月9日に「まち歩きワークショップ」のご意見をもとに、香陵校区で大切にすべきもの、守るべきもの、あるいは改善すべきことなどについて意見を出してもらい、まちづくりビジョンのキーワードにつながっていければと思っている。

# ●今年度でのまちづくりビジョンとルールづくりを目指す

今年度は、香陵校区自治協議会の役員改選も あることから、このまちづくりビジョン策定へ の活動は6月からとなりそうだ。

現時点で、下表のようなまちづくり活動を予 定している。

今年度中でのまちづくりビジョン、ルールづくりを目標としているが、合意形成に時間がかかるようであれば、来年度まで延長となるかもしれない。できるだけ今年度策定を目指したい。

また、多くの校区住民の方々に香陵校区の魅力を再認識してもらうためのアンケート調査、

今年度4月からの活動予定

	内容・検討事項	時期				
第4回	<ul><li>・第3回勉強会の振り返り</li><li>・今後の進め方について</li><li>・住民アンケートの内容の確認 →実施時期実施方法 →キャッチフレーズの募集</li></ul>	6~7月				
第 5 回	・第4回勉強会の振り返り ・アンケート結果の報告 ・まちづくりビジョンについての意 見交換					
第6回	<ul><li>・まちづくりビジョン (案)</li><li>・まちづくりルールの骨子 (案)</li></ul>	10~11月				
第7回	・まちづくりルール (素案) につ いて	12 月				
第8回	・まちづくりルール(案)につい て	1~2月				
第9回	• 最終報告	3月				



まち歩きで感じたことを地図に記入し、皆で意見交換活動を知ってもらうための(仮称)まちづくりニュースの発行などを実施していきたい。将来、まちのビジョン、まちづくりのルールによって、開発事業者と一緒により住みやすく、魅力的な香陵校区にしていきたい。

今年度の活動についても、節目々で報告して いきたいと考えている。 (やまだ たつお)

# 平成 25 年度福岡県自主防災組織設立 促進モデル事業

全3回のワークショップを振り返って

山﨑 裕行

前号で紹介した「平成25年度福岡県自主防 災組織設立促進モデル事業」(以下、モデル事業) の取組の続編である。前号では、全3回のワー クショップのうち、1回又は2回が終わった時 点での内容であったが、今回は3回目が終わっ たところがあり、その点も踏まえて感じている ことをまとめてみたい。

このモデル事業は、福岡県下の10市町村を 対象に実施している。基本的には、市町村の方 で自主防災組織が未設立の地区で、自主防災活 動に関心のある地区を選んで頂き、その地区 に対して私どもが派遣されて計3回のワーク ショップを実施している。ワークショップを通 じて災害に関する知識や自主防災組織の活動、 災害図上訓練の進め方などを知って頂き、防災 意識の向上と自主防災組織の設立を目指してい る。各回の詳細は前号をご覧頂ければと思うが、 第1回目は地域防災、自主防災組織についての 講演、第2回目は災害図上訓練、第3回目はま



**班長以下、役割分担をしてのまちあるき** ちあるきという流れである。今回、企画・運営 する側として良かったなと思うのは、「まちあ るき」を取り入れた点である。

第3回目は、第2回目で作成した図面をもとに、実際にまちを歩いて、①避難の際に危険となる場所がないか、②避難場所の代替となる場所はないかの確認をしてもらっている。まちあるきはグループ毎に行い、時間は大体1時間、歩くコースは各班に決めてもらっている。まちあるきの後は、歩いてみて気がついたこと等を話しあってもらい、参加者全員で共有する時間を設けている。

普段、歩き慣れたまちであっても防災という 視点で見ると新たな発見があるようだ。これ は、各地区共通である。ある地区では、「電灯 がなく夜に避難する場合、この道は危ない」や 「改めてまちをみると、古い建物や傾いている ブロック塀などが多い」という意見が聞かれ た。また、「坂道が多いので災害時要援護者を 連れて避難する際はみんなで協力しないといけ ない」や、「たまたま避難所となっている高校 の生徒と話をしたら、災害時には高校が避難所 となることを知っていて驚いた」という意見も あった。まちを歩くことで偶然の出会いもある。 こういう「出会い」や「気づき」、そしてその「共 有」が、防災への関心、地域への関心を高める 一歩だと感じている。

振り返りの発表では、「今回の取組を継続的に行っていきたい」や「役員会で紹介すべきだ」、「備蓄がどれだけ必要なのか考えないといけない」という意見を非常に多く聞く。私自身は、モデル事業はあくまでもキッカケづくりでしか



**家の直ぐ横を流れる水路。夜間は気づかない恐れもある**ないと思っている。その意味で、まさに今回の 取組がキッカケとなり、次の取組につながれば、 まずは成功だろう。

これまでに6つのモデル地区で終了したわけ だが、幾つか課題も見えてきた。1つは、色々 な災害を想定して取組を展開することの難しさ である。各モデル地区では事前に市町村の方、 あるいは地域の代表者の方と打合せをして、地 区の災害想定について確認する。大別すれば、 「地震」と「水害(土砂災害)」なのだが、実際 にワークショップをすると、当初の想定とは逆 の話で盛り上がったり、両方で話を進めて欲し いという場合がある。あるいは、「災害の規模 によって対応が異なる」という意見を聞く。悩 ましいのは後者である。多くの方がそうである ように、私自身も直接大災害を経験したことが ない。したがって、見たり、聞いたりしたこと を含めて想像力をフルに働かせてお話をさせて 頂く。その意味で、もっと色々なことを知らな ければならない。ただ、災害の規模を想定する ことの難しさは東北大震災が示す通りである。 どのような災害であっても「自分の命は自分で 守る」が基本であり、そのために何が出来るか、 何をしたらよいか、を一緒に考えるというスタ ンスで望んでいる。

もう1つは、地域活動の単位がバラバラのなかで、自主防災組織の活動イメージをどのようにもってもらうとよいか、という点である。中学校区単位のところもあれば、行政区単位、組(町内会)単位のところまである。全国的には、ほとんどの自主防災組織が町内会単位で組織されているようだ。第1回目のワークショップで

自主防災組織の組織体制や活動内容などは一通 り紹介する。それをヒントに地域で話し会って 決めてもらうしかないのかなとも思っている。

課題を挙げると尽きない。第3回目の最後には、取組についてのアンケート調査をしているが、幸いにして概ね好評を頂いている。一つ一つ解決して、よりよいものにしていきたい。

(やまさき ひろゆき)

### 地域ゼミ報告

(NPO) グリーンシティ福岡の取り組み

原 啓介

第94回の地域ゼミは、NP0法人グリーンシティ福岡の理事の志賀壮史氏をお招きして開催した。NP0法人グリーンシティ福岡は、造園業協会の方々が中心となって2002年に立ち上げられたNP0で、志賀島の森林保全活動など九州一円の自然環境保護活動や、環境教育事業を展開しておられる。以下、志賀さんからのお話を抜粋して紹介する。

### ●志賀島の森林保全ボランティア活動

- ・伸びすぎて市道の通行を邪魔している木を刈り、不法投棄されたごみを拾うなど、志賀島をきれいにする活動を行っている。
- ・2009 年から 2011 年までの 3 年間は、市と NPO の協働事業であり、地元の方々をはじめ市内 外からのボランティア、造園業協会メンバー 等で清掃活動を行っていたが、2012 年からは NPO のみの事業として動いている。
- ・清掃活動後、人の流れが変わった実感がある。 潮見公園付近の駐車場は、車上荒しが大変多 い場所だったのが、清掃後見晴らしが良く なったことで激減した。
- ・階段を登って展望台に行かなくとも美しい景 観を見ることができるようになったと、新聞 に投書があった。
- ・清掃活動には数十万円必要であり継続は大変 だが、志賀島という由緒ある場所における活 動のフィールドがあるということが意義深い。
- ・地元の方から「30年分の木を切ってくれた」と言ってもらった。現在、草刈り等をしてく

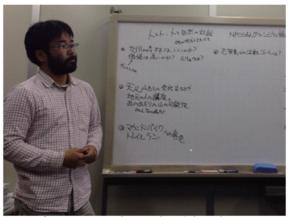
- れているが、もっと多くの地元の方に参加してもらいたいという思いもある。
- ・今後は、観光や地域活動、ボランティア情報 を入手したり、地域住民と外部のよそ者が対 話できる場をつくりたい。通年で営業してい なくても良いので、見晴らしが良い場所にカ フェがあれば良いのではと思っている。

#### ●松原保全活動

- ・玄界灘沿いの松原が大変なことになっている。 芥屋の松原には、松がほぼなくなった。原因 はマツノザイセンチュウと、その運び屋であ るマツノマダラカミキリ。センチュウは外来 種で、カミキリムシは在来種のコラボ。セン チュウが元気な松を枯らし、カミキリムシの 幼虫が枯れた松で成長する、そして成虫がセ ンチュウを新たな松まで運ぶという共生関係。
- ・松にセンチュウを殺す注射を打つ、薬剤散布でカミキリムシを殺す、松を伐採して駆除すという3通りの解決策があるが、注射は値段が高く、薬剤散布は他の昆虫も殺してしまい、人間への健康被害も懸念される。そのため、伐採された松や枯れた松の枝を拾うボランティア活動を行った。西日本新聞で事前に掲載されたこともあり、当日は100名集まった。
- ・松原は人工林であり、擁壁・防波堤の効果を 果たす古来からの都市インフラ。松林が無ければ後背地の宅地や田畑が影響を受け、地価にも影響がある。大事な松林は、福岡市が管理しているが、その他の松原をどう保全していくか、県や市、地元が対話する場が無い。この場づくりが活動の本丸であり、意義だと思っている。

### ●「森のめぐみ」活動

- ・福岡市内に特別緑地保全地区が70カ所ある。 特別緑地保全地区は市街化区域の中の残存緑 地をマンション開発等から守るため、都市緑 地法のもとで指定を受けた良好な緑地。
- ・特別緑地保全地区内の余分な木を間伐し、大 学の先生から製材と乾燥の技術を学び、加工 体験をする。また、ローソン緑の募金の助成 金を活用して、クラフトづくりのレシピを開 発し、「森のめぐみ」という HP で公開している。



(NPO) グリーンシティ福岡理事の志賀壮史氏

- 参加者は3才から小学生のこどもを持つ親が 最も多く、20~30代女性も多い。
- ・「ちっちゃな森を都市に持ち出す」というコン セプトで、森で体験できる遊び、森のかけら を都市にいながら体験することができる。

## ●森林セラピー講師

・篠栗町の三浦町長が、「健康、観光、環境」を 町運営の柱にすると言って、「森林セラピー 基地」の運営を始めた。NPOグリーンシティ 福岡では、篠栗の森の案内人となる人材養成 を担当しており、これまで30人のボランティ アガイドを輩出した。また、黒木町の森林セ ラピーの講師も務めている。なお、グリーン シティ福岡では、ボランティアガイドさんの ことを自然と人の中を取り持つ通訳者という 意味でインタープリターと呼んでいる。

### ●九州自然歩道フォーラム事務局

- ・九州自然歩道は3,000kmのロングトレイルで、 九州の山々や集落を福岡から鹿児島の先端、 佐多岬にいたるまでつなぐルートである。
- ・しかし、九州自然歩道が整備されて30年以上 経過し、荒れた場所や道路が変わった場所も あるため、ルートを見直しながら、おすすめ コースを30本選定した。
- ・また、自然歩道の管理者やユーザー、教育機 関や交流施設などが参加するワークショップ のファシリテーションを担当している。

# ●緑についての対話の場づくりのエキスパート

NPO グリーンシティ福岡は、志賀さんにお話 しいただいたように、山間部や島など緑あふれ た地域の住民と都市住民、緑の管理者とユー ザー、大人と子ども、行政、企業、市民など様々な立場の方々が自然環境について対話しながら理解を深める場をつくっておられる。当社も、佐賀市にある嘉瀬川ダム、北山ダム周辺で森林保全等の活動を行っている市民団体・NPOの支援事業や、志賀島の未利用地活用のお手伝いをしているので、当日は具体的な話題について活発な意見交換が行われ、あっという間の2時間であった。

志賀さんとは今回初めてお会いしたのだが、 ヒゲモジャで日に焼けた、私の中での山愛好家 のイメージとかなり近い風貌。そして、お話を お聞きすると、物腰が大変柔らかく、お話は分 かりやすく、九州の山の魅力・特長、生態系、 緑関連の法律など、自然環境保護、緑のまちづ くりについての知識が大変豊富な方で、見た目 以上のエキスパートだと感じた。今後、緑のま ちづくり関連の仕事に取り組む機会があれば、 ぜひまた相談したい。

私は幼少の頃から父親に九州の様々な山に連れて行ってもらい、今は自分が毎年子ども達を山に連れて行っている。そしてトレイルを登ったり、走ったりするイベントにも定期的に参加するなど、そこそこの山好きである。しかし志賀さんからのお話にあったのだが、忘れてはならないこととして、私たちが山に入ると少なからず山に負荷をかけている。日頃楽しませてもらっている自然への恩返しの思いも込めて、そして自分の子ども達が緑のプロフェッショナルのもとで魅力を全身で味わってもらうためにも、NPOグリーンシティ福岡の活動に参加してみたいと思う。 (はら けいすけ)

# 第1回公共施設マネジメント研究会 活動報告

本田 正明

前回のよかネットで報告した公共施設マネジメントセミナーで、今後も自治体の取り組みやノウハウを共有できる場を作ろうという話を受けて、さっそく11月22日に「公共施設マネジ

メント研究会」を発足しました。福岡大学工学 部建築学科の池添先生や近畿大学産業理工学部 建築・デザイン学科の益田先生(会合は欠席) にもアドバイザーに加わっていただき、本格的 に始動しはじめました。自治体からは、シンポ ジウムにも出席いただいた6市町から10人ほ ど参加いただきました。

初回の会合なので、各自治体の抱えている公 共施設マネジメントの現状と課題について共有 した後、(財) 地方自治研究機構の桑野斉さん より、先進地の事例を交えながら、公共施設マ ネジメントを進めていく上でのポイントや課題 等を紹介してもらい、意見交換を行ないました。

### ●危機意識の温度差

参加した自治体それぞれに公共施設マネジメントに取り組むきっかけを聞いたのですが、合併による旧市町村にある公共施設の重複、庁内や議会、首長の危機感の温度差、交付金削減による財政不足、担当人材の不足、関係各課との施策面での連携など、課題は様々です。

建物の劣化などは急には進まないので、施設の維持管理の問題は顕在化するまで時間がかかります。本当はライフサイクルコストを考えて早めに手を打った方がいいはずなのですが、どうしても緊急度や重要度で、他の施策より後回しになりやすいようです。庁内での危機意識の温度差は、どの担当者も感じているようでした。

# ●難しい部局間の調整

意見交換の場で、特に関心が高かったテーマは、「調整」です。削減の対象となった施設には、所管している担当部署などからどうしても反対意見が出てきます。例えば、少子化で児童生徒が減った学校の教室を利活用したくても、「余裕教室」としてパソコンルームなどに活用しているので、「空き教室」はないと言われてしまうそうです。トップマネジメントがないと、関係部局間の調整では、膨大なエネルギーと時間がかかって進まないとある職員は嘆いていました。既存のストックを数多く抱えている自治体ほど、調整だけで大変そうです。

また、財政管理の立場からは、限られた予算の中で、様々な部署から上がってくる改修・修



第1回会合の様子

繕の要望に対し、どの施設を優先するかの判断 基準がないこと、長寿命化の計画を作ったとし ても、その場しのぎの修繕予算しか確保できな いことなどが課題として挙げられました。

桑野さんからは、情報を収集し管理するセクションと施策を企画したり、マネジメントを行うセクションを区分していく必要があること、施設の削減の問題と劣化への対応は分けて考える必要があることなどをアドバイスしていただきました。埼玉県の秩父市では、施設の劣化度を把握するため、1件10万円以内で簡易査定するスキームを実施しているそうです。また、参加者からも部局間の連携を図るために公共マネジメントの担当と教育委員会の役職を兼任している事例などを教えていただきました。

### ●情報格差と世代格差の問題

今回の研究会で、参加者の話を聞きながら、「危機意識の温度差」には、部局間での温度差はもちろんですが、さらに数字やデータに対しての理解の差や世代の差、価値観の差といった問題もあるように感じました。

数字やデータについては、企画や財政の担当者が把握しているものがオープンになっていなかったり、そもそもデータ自体が未整備で把握されていないなどの問題があります。また、公表していても数値の見方や判断の基準となるモノサシが不足していることなども問題だと思いますが、これらの対策として公共施設マネジメント白書を作成する動きが見られます。

もう一つの世代の差、価値観の差は、研究会の参加者は  $30 \sim 40$  代の若手職員が多かったのですが、10 年後、20 年後も現役職員であるため、

将来にツケを回してしまうような意思決定に慎重です。一方で50代以上になると、高度成長期のような新しい施設をつくることでのまちの活性化に魅力を感じているようです。ハコモノなどの「施設」を所有したいという価値感と、「機能」が満たされればレンタルやシェアでも構わないという価値観が世代によってかなり異なるように感じました。

#### ●今後の進め方

今回の会合を通じて、公共施設マネジメントを進める上で自治体が抱える具体的な課題が数多く見えてきました。この研究会では、先進的な取り組みを行っている事例の情報共有はもちろんですが、自治体に協力いただき、実際の現場で公共施設マネジメントのケーススタディなども行いたいと考えています。次回は2月にはセミナーのパネルディスカッションで報告いただといた長崎市に視察で伺い、自前で行っている公共施設マネジメントの取り組みを報告いただく予定です。ご興味のある自治体関係者は、ご一報ください。 (ほんだ まさあき)

# **へいちくフェスタ 2013 に参加しました!** 山﨑 裕行

10月5日(土)、6日(日)の2日間、平成 筑豊鉄道(以下、平筑)の最大のイベントであ る「へいちくフェスタ 2013」が開催されました。 今回は、調査も兼ねての参加でしたが、その様 子をお伝えします。

今年は伊田線開業 120 周年記念ということもあり、駅ナカパビリオン第4弾として、沿線自治体や関係団体との連携により、人気のスイーツや駅弁、ホルモン鍋や焼きスパなどのご当地グルメ、各駅で地域密着型の多彩な催しがありました。

10月5日は生憎の空模様で、雨が降ったり止んだり。前日も雨が降っていた関係で、当日朝の設営はバタバタという状況でしたが、午前10時のオープニングにはばっちり準備完了。メイン会場となる金田駅は飲食ブースが建ち並びま

した。今回は、福智町さん主催の県内最大のスイーツイベント「フクチファインドフェスタ」とも連携しており、金田駅には朝から多くの方が訪れていました。平筑が生き残っていくためには、地域外からのお客様に利用してもらう必要があります。そのためには、集客力のあるイベントと連携する、又は集客力ある企画を実施するということが重要ですが、まさに今回はその一つの形を実現したと思います。

直方駅では、直方が誇るB級グルメ「直方焼きスパ隊」の方と連携し実演・販売があったり、JR九州さんと連携して九州名物駅弁の販売がありました。田川伊田駅では、田川ホルモン喰楽歩さんと連携して「田川ホルモン鍋」の実演・販売などがありました。赤駅では赤村の特産物販売のほか、赤村トロッコの臨時運行がありました。崎山駅では、地元のひまわり祭と連携して、会場と駅とを結ぶシャトルバスの運行などがありました。また、5日は豊津駅にて行橋市さん、みやこ町さんと連携して黒田官兵衛ゆかりの地を行く「馬ヶ岳ウォーク」を行いました。開始時間前から駅にいらっしゃる方もおり、200名を超える参加者でした。天候が晴れていれば、もっと多くの方に参加頂けたと思います。

5日は、乗降調査の結果をみても来訪者は少なかったようです。それでも、各駅とも普通の 日と比べると、数倍の利用がありました。

一方、6日を見ると、天気も良く、各駅とも 朝からにぎわいを見せました。前日に引き続き、 金田駅には多くの方が訪れていましたが、他の 駅も前日とは比べものにならない程の人が訪れ ていました。特に、赤駅や崎山駅は屋外型のイ ベントということもあり、天候による影響を改 めて思い知らされました。

今回のへいちくフェスタでは、両日に渡ってスタンプラリーも行いました。直方駅、金田駅、田川伊田駅、赤駅、崎山駅にそれぞれのご当地キャラクターのスタンプを置いて、それを回ってもらうというものです。5つスタンプを押した方を対象に、抽選で豪華賞品を準備しました。結論から言えば、初期投資もそれほどかから

ず、駅間の移動という回遊性を高めるには、スタンプラリーは有効な手段ではないか、と思います。多くの参加者が列車を利用してその駅まで行き、スタンプを押したのちに、駅のイベントを楽しんで、また列車で次の目的地に行くという流れでした。スタンプラリーは大人から子供まで楽しむことが出来ます。参加者数を集計したわけではありませんが、様子を見ているとお子様連れのご家族の参加が多かったように思います。

今回、来訪者が「どこから」「どうやって情報を入手して」、「どういう目的で」来られたのか、その傾向を掴むため利用者動向調査を実施しました。回答者は2日間で1,085人でした。

まず、「どこから来たのか」については、田 川市又は北九州市から訪れる人が多い結果でした。また大分や佐賀、東京など遠方からという 回答もありました。

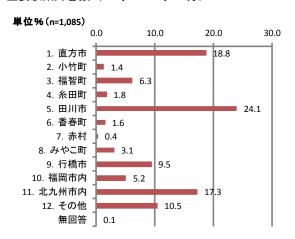
次に、「情報入手の方法」は、「平成筑豊鉄道ホームページ」、「駅掲載のポスター」、「市町村の広報誌」の回答が多く、沿線市町村から来た方は「市町村の広報誌」、「駅掲載のポスター」、それ以外の地域では「平成筑豊鉄道のホームページ」、「友人・知人」という回答が多くありました。テレビ等でも紹介されたため、それを見て、ホームページで確認あるいは友人・知人から誘いを受けて訪れたという流れがありそうです。「偶然通りがかった」との回答はほとんど無かったため、回答者の多くが事前に情報を入手して、目的を持って訪れたようです。

では、その「目的」についてみると、「催しに興味があった」「販売されているものに興味があった」「スタンプラリー該当駅だから」が8割以上を占める結果でした。当日は、全区間1乗車100円という100円列車が運行されましたが、「100円列車なのでたまたま」との回答は、全体を見ても、また各駅を見てもいずれも1割以下でした。

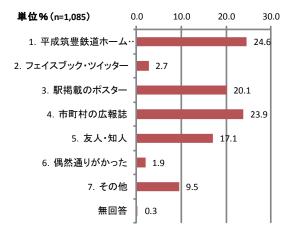
この調査からは、情報の入手方法として広報 誌、ポスター、ホームページが多かったことか らも、引き続き丁寧な情報発信を心がけること、

駅名	へいちく フェスタ 10月5日 (土)	普通の日 6月22日 (土)	10月5日 との比較	へいちく フェスタ 10月6日 (日)	普通の日 6月23日 (日)	10月6日 との比較
直方駅	1,604	490	3.3倍	1,595	369	4.3倍
金田駅	2,179	254	8.6倍	2,667	236	11.3倍
田川伊田駅	946	258	3.7倍	1,064	183	5.8倍
赤駅	408	22	18.5倍	831	14	59.4倍
崎山駅	178	21	8.5倍	584	3	194.7倍
行橋駅	524	291	1.8倍	846	230	3.7倍
計	5,839	1,336	4.4倍	7,587	1,035	7.3倍

主要駅乗降客数 (9時~16時30分)



どこから来たのか



#### 情報入手の方法

回答者の多くが目的を持って参加していること からコンセプトを明確にした事業展開が重要で あることなどが言えそうです。

平筑だけでは出来ることに限界がありますが、沿線市町村、関係団体と連携すれば、出来ることが格段に広がります。今回のへいちくフェスタ2013はそれを示した1つの取組みだったと思います。今後、このような連携が色々と広がると、平筑のみならず、地域全体も盛り上がっていくのではと思いました。

(やまさき ひろゆき)

# 近 況

## 一般では、これでは、またいでは、またい。 一般では、これでは、またいではでは、またいではでは、またいでは、またいでは、またいではではでは、またいではでは、まではでは、またいでは、またいではではではでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、まではでは、まではでは、まではでは、まではでは

我が女房の実家(以下「実家」)は、福岡県田川郡添田町桝田一の宮にある。一の宮集落は、川崎から添田町、英彦山へ行くメイン道路・県道 52 号線沿いにある JR 日田英彦山線「豊前桝田駅」を過ぎて、すぐ左手に曲がったところから山手の道を 4 kmほど登ったところにある。山間部とはいえ、道沿いには農業を営む人家が残っている。

かつては英彦山で修行する修験道が行き来し た道であったと言われている。

昨年、添田町の仕事を一段落終え、田川市で 開かれる防災ワークショップまで時間があった ので、2年ぶりに実家の様子を見に行った。

「消えた塩サンマ (よかネット 103 号掲載)」 事件依頼の実家の訪問であった。

現在、実家は空き家となっているが、北九州 市に住む義理の兄が毎週1回は、家の管理のため、実家に帰っているようだ。

実家に行く途中、畑の周りには高さ 2.0 mほどの金網がつけられており、今まさに装着作業している畑もみられた。2年前には見られなかった風景であった。

これは鹿用の防護柵であろうとは直ぐに気づいたが、まさか実家付近まで鹿が降りて来ているとは本当に愕然とした。

鹿は増えているとは聞いていたが、里山を通り越し、人家付近まで降りてきているようだ。

実家の周りを見渡すと、栗の木の下には、昨 日ぐらいにしたような鹿の糞が落ちていた。

環境省の推計によると、この 20 年間で 30 万 頭から約 260 万頭 (中央値の推定:北海道除く) と約 9 倍近く増えているという。

添田町では、年々猪や鹿などによる農作物被害が拡大してきたことから、2010年11月に加工施設を建設し、町民や町職員でつくる「英彦山ジビエの会」が運営している。

鹿肉は、新鮮なうちに冷凍し、生で食べるの



2 年前までは見られなかった道筋にみられる高さ 2 mほどの鹿用防護柵



女房の実家の栗の木の下にみられた真新しい鹿の糞が一番美味しいが、やはり虫がいるので一般消費者は熱を加えてからでないと食べられないようだ。とにかく日本人は輸入肉を食べる以前に鹿肉、猪肉をもっと食べるべきだと思う今日この頃である。しかし、少々鹿肉を食べても鹿の繁殖力には追いつかないだろう。

しかしながら、鹿や猪からの被害を軽減する ためには、ジビエの美味しい食べ方を工夫し、 もっと PR し、もっと消費を増やす努力も必要 であろう。 (山田 龍雄)

# 一般を表しむ 一般を表しむ

昨年の11月23、24日の連休、私が加盟している異業種交流会 SAS の会の「秋の有田・伊万里研修ツアー」に参加しました。11月に入って長らく寒さが続き、秋らしい日々が少なかった中で、久しぶりに秋の陽気と紅葉を楽しみながら、10数年ぶりに有田と伊万里の窯元をいくつか廻りました。業務用の多種多様な食器から人間国宝の芸術作品と、有田の多様な磁器文化に触れられたことも面白かったのですが、有田の

(合名会社) 松尾酒造場は一見の価値があります。この酒造所は、年間生産量1万2千本程度(1升瓶換算) であるため、大規模な設備投資はできず、昔ながらの樽や絞り器を利用し、ご夫婦と数人の従業員で酒造りをされています。家屋も約260年前に建築されたといわれており、黒光りする柱や梁にその年月が感じられます。

有田の酒は、有田盆地の地下から汲み上げられる超軟水の水だからこそ、なめらかでスキッとした酒になるそうで、特別純米吟醸酒「宮の松(4合瓶)」は、値段も1,300円と手頃であり、辛口のすっきりした味でした。

お酒以外に購入したのが、写真の酒燗器です。 玄関口の棚にぽつんと置かれており、最初は売り物でないのかも知れないと思い、「これは売り物ですか?」と尋ねるくらい、その棚に馴染んでいました。この酒燗器は、有田の窯元「親和伯父山」とコラボして造られたとのことです。外側の容器にお湯を入れ、中容器(徳利みたいなもの)にお酒(約1合未満)を入れて、合体させ、3分間で"ぬるカン"の酒が飲める仕掛けとなっています。

正月は、この酒燗器で、燗酒に合うという純 米酒「宮の松」を楽しむ予定です。

昔ながらの家屋や設備で頑張っている松尾酒造場のような小さな蔵元は、微力ながらも応援したいものです。私には、そこのお酒を呑むこと、周りの人にその良さを伝えることしかできませんが、その伝統の味をいつまでも続けていっていただきたいものです。 (山田 龍雄)

## 禁生活の豊かさ

2013年に出された日本経済研究センターの長期経済予測中間報告「2050年構想『グローバル長期予測と日本の3つの未来』」では、40年後の日本が世界3位の所得を実現することも可能だという予測が出ている。報告書によると、2010年の世界第1位の1人当たり国民総所得の国は、ノルウェイで8.7万ドル、日本は4.2万ドルで15位である。これを、日本の革新的な制度を実現すれば、2050年には世界3位に成長することができるという。そのための革新として、雇用慣行・制度の壁、資本・規制の壁、エ



すべてのパーツを合体した酒燗器



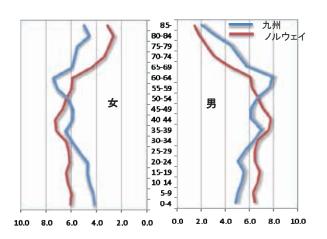
左の容器にお湯をいれ、右の徳利風の容器にお酒を 注ぎ、その徳利をお湯に入れて3分待つとかん付け のお酒が楽しめる

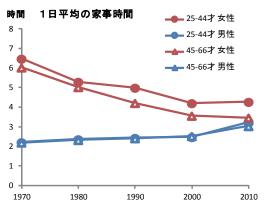
ネルギーの壁を取っ払うことが必要という。1 人当たり生活の豊かさの予測では、北欧諸国が 上位にあり、福祉と競争の重視がその源にある とされている。この豊かさのトップであるノル ウェイが、いったいどんな国なのか、調べてみ た。

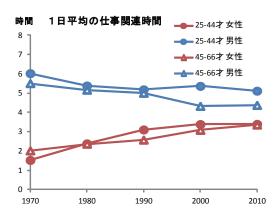
ノルウェイの 2013 年の人口は約 505 万人、 九州の人口の 4 割程度である。年齢別の人口ピラミッド (2010) をみると、ノルウェイは 40 代以下の比率が高い。ノルウェイの出生率は、1.88(2011)で、スウェーデン1.90、アメリカ1.89 等と並び、40 年後ぐらいまではこの形が維持されそうである。豊かさの源泉である所得を得るための仕事はどうしているのか。16 才以上の1日の生活時間の調査があったのでみてみた。

女性の家事時間はこの 40 年間ずっと減少してきている。その分を男性が補っているのかと思ったが、家事時間は増えてはいるものの、これで全てが補われている訳ではないようであ

### 九州、ノルウェイの5再階級別人口構成比







資 料:「Statistics Norway:Time use survey 2010」より作成

る。おそらく、家事時間を短縮する様々な道具 の導入やサービス利用が進んで来たためであろ う。

仕事時間はどうか。1日平均の時間をみると、女性の仕事時間は増加、男性は減少傾向にある。しかも男性は5~6時間である。日本での仕事時間の平均は7.5時間(資料:「日本人の生活時間・2010」による有識者の平日の平均)であり、1時間以上多い。ノルウェイ在住者のブログな

どをみると、仕事は4時ぐらいには終え、5時には帰宅、残業はほとんどない、と書かれている。日本でこういう生活をしている人はほとんどいないだろう。ちなみに、ノルウェイのテレビ視聴時間は1.5時間、日本は3.5時間(資料同上)、睡眠時間はほとんど変わらず、このテレビの時間に大きな違いがある。日本が今後もそれなりの豊かさを維持するためには、規制の壁を取っ払うことも必要とは思うが、1日の時間の使い方をもっと考えなければとも思う。「生活の豊かさ」とは何のなのか、ずいぶん昔から、このことは国民生活指標のテーマに取り上げられてきたが、今でも自身にとっては解決されていないテーマである。 (山辺 眞一)

### 深マンションの理事長をやっています

今期、自分の住むマンションの理事長をさせてもらっています。中古マンションを購入してから3年足らずしか住んでいませんが、まさかすぐに理事長に選ばれるとは思わず、油断していました。しかも、築13年を経過して、大規模改修を行うという当たり年。集会場の使用回数だけでも例年の数倍はあったでしょう。自分の運のなさを呪います。

理事長の仕事は、思った以上に時間を取られます。45 戸しかないのですが、半年で4件も車庫証明の書類をつくりました。軽自動車への乗り換えかと思いきやけっこういい車だったりして、世間は景気がよいようです。

大規模改修では、進捗状況を随時チェックしないといけないので、毎週のように打ち合わせ。 コンサルタントの自分がコンサルタントを雇い、デベロッパーを面談するという貴重な体験もさせてもらいました。資料を準備してもらい、的確なアドバイスと意見で事業の進行をサポートしてもらえる、この時ほどコンサルタントのありがたさが身にしみたことはありませんでした。

改修工事中は、近隣住民からのクレームで何度も足を運びました。「工事を止めるぞ」と脅されもしましたが、家庭菜園という共通の話題を見つけてからは、野菜をおすそ分けしてもらうくらいの仲になりました。よくよく話を聞い

てみると、マンションが建ったことで湿気がひどくなり、建設時の補償以外にも改修時にかなりの自己投資をしているそうです。マンションの住民に非はないのですが、周辺住民の苦労にもっと理解を示してほしいというのが本音のようでした。

マンション内のことも簡単にはいきません。 エレベーターが夜中に緊急停止して人が閉じ込められたり、給水槽の配管が破損していて空っぽになっていたり、大規模改修の費用もギリギリで、ただでさえ管理組合の資金繰りが厳しいのに、次から次へとトラブルが発生します。子どもたちのイタズラの問題やペットの糞尿被害など、管理人さんからの報告は新聞のように毎日届けられました。

過去の理事会が対応をしていなかった問題も いろいろあります。ペットを飼ってもよいマン ションなのですが、管理を行うはずのペット委 員会は規約にはあっても実在していません。建 設会社が共用部に勝手に近隣住民のアンテナを 設置していて、その覚書なども紛失しています。 地デジ化で不要となった電波障害用の共聴アン テナの撤去もできていないので、台風で被害を 受けたりしたら、補償しないといけないことも わかりました。トラブルを知ると保留するのが 嫌なので早く解決しようと行動するのですが、 そのたびに新しい問題が出てきます。管理組合 の予算もないので、お金がかかることは、ほと んど手がつけられないままです。唯一、自分で 実施したのは年間 18 万円くらいの削減効果が あるというので、白熱電球を LED に替えたこと ぐらいでしょうか。4月の総会でようやく任期 満了ですが、次の大規模改修のための資金が不 足することが分かったので、修繕積立金の3割 程度の増額を住民にお願いしないといけませ ん。もうひと波乱ありそうな予感がします。

大変なことばかり書きましたが、幸いにも、理 事の皆さんは意識も高く、毎月の理事会もほと んど出席して意見を出してくれます。マンショ ンの半数以上の世帯の人とコミュニケーション を図れるようになったことは貴重な財産です。 まだ参加できていませんが、行政区の会合にも 声がかかってくるようになりました。自治会にデビューする日も近いかもしれません。

(本田 正明)

## 深ソーシャルメディアを活用した観光情報発信

昨年の9月6~8日の3日間、特に20~30代の女性に人気のあるブロガーを佐賀県にお招きし、佐賀の観光情報をソーシャルメディア上に拡散するためのツアー「ソーシャルツアー@ SAGA」を企画・実行した。私もこのツアーの主催団体であるソーシャルツアー@ SAGA 実行委員会に事務局として関わり、企画やツアー中の同行、効果の分析や報告書の取りまとめを行ったので、今回はその結果についてご報告したい。

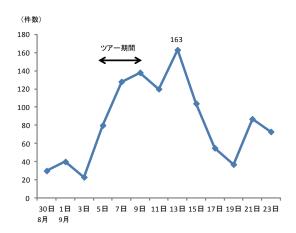
なお、今回のツアーは、東京から伊藤春香(は あちゅう)さん、渡辺由布子さん、関西から村 上萌さんをお招きし、佐賀大学在学生の江崎ひ とみさんが案内するという形で実行した。

### ●観光情報発信の効果

9月6日は佐賀市、7日は唐津市、8日は鹿島市、 武雄市を中心に回った。この3日間のツアー期 間中、ブロガーは佐賀に関するツイートを103 回発信し、それに対して計444回の反応(公式・ 非公式リツイート、メンションの合計数)が寄 せられた。特定のキーワードについては、ツアー 前後でそのキーワードを含むツイートの数がど う変化するか、モニタリングを行ったところ、 例えば「佐賀牛」というワードを含むツイート は、ツアー前の9月4日頃は一日20~40件で あったのが、ブロガーの方々の発信をきっかけ に、ツアー終了後の13日には163件まで伸びた。 また、6~8日の期間中、ブロガーによって書 かれた佐賀関連のブログの総ページビューは計 約20万であり、その後もこれらの記事はネッ ト上で閲覧され続けている。

### ●これからに向けて、改善すべきポイント

佐賀牛、唐津焼、呼子のイカ、祐徳稲荷神社、 有明海の干潟、武雄市図書館についてはブログ やツイッター等で多く取り上げられたが、唐津 城、名護屋城等の歴史・文化施設や、特産品開 発・販促の取り組みについてはブロガーの方々 による発信頻度が少なく、事務局の期待ほど PR



「スパークロール」というサービスを利用し、「佐賀 牛」を含むツイートを収集 ができなかった。

こうした歴史的、文化的な要素に関しては、 その文化的、情緒的な価値への理解は、地元住 民でさえ時間がかかることであるため、美容、 健康、食など、わかりやすくソーシャルメディ ア上で映える要素でまずは佐賀県に関心を持っ てもらい、そこを入り口として佐賀県の深さに 触れる場づくりを企画設計する必要がある。ま た、クレームの可能性を周知しておくことや、 問合せ窓口の明記をしていなかった点は反省材 料であった。

### ●ツア一終了後、個別の案件につながっている

ツアー中、読んだ方々から「佐賀をPRしてくれてありがとう」「佐賀に行ってみたくなった」「九州に住んでいるのに佐賀のことを全然知らなかった」等の感想が寄せられた。それらのコメントを、テキストマイニングによりポジティブネガティブ判定をしたところ、約9割はポジティブな反応であった。

また、今回のツアーをきっかけとして、東京 汐留のレストランにおいての佐賀県の食材を 使った料理をブロガーが PR する企画や、ブロ ガーの方々の個人的なサロンにおける特産品の PR、某市の商品パッケージデザイン案件などの コラボレーション・新たな商品開発の動きに繋 がっている。

今回のツアーは、複数の観光協会や自治体、 企業から数十万円の協賛金を得て実施された。 今後、実際にブログを見た観光客が何名増加し たのか、あるいは通販の売り上げがいくら向上



#### 9月8日西日本新聞の記事

したのかなど、消費への効果について、事業者の方々や行政の担当者にヒアリングを行う必要があるが、当初目的とした「ソーシャルメディアによる情報発信」が、結果として地方紙3紙に7回取り上げられ、一定の発信効果はあった。こうしたインターネット、ソーシャルメディアを活用した地域情報の発信と効果測定について、今後もアンテナを張り勉強していきたいと考えている。 (原 啓介)

## 森健康診断の結果

健康診断の結果が帰って来ました。大体、予 想通りの結果でした。

### 【予想通りの内容】

- 肥満
- 脂肪肝
- ・コレステロール値、若干高め

上記は、いつものことです。悪くなっている わけではなく、ここ数年間、現状維持のままで す。ひとまずは、よしとしたいと思います。悪 くなっていたら大変です。

#### 【予想外の内容】

- ・身長が伸びた
- ・ 尿酸値高め
- ・肺活量が若干落ちた

まず、身長が伸びたのはびっくりしました。 夢の180cm台まで、あと1cmです。体重は十分ですので、上にだけ伸びて欲しいと思います。

次に、尿酸値高めは、これは九州に戻って来て、ビールを以前よりも飲むようになったことと、ホルモンを美味しく頂くようになったことが影響しているように思います。

そして、肺活量が落ちたのは、ショックです。 これまでは、実年齢よりも若かったのですが、 今回は+3歳でした。たばこは吸わないので、 やはり運動不足かと思います。

いずれにせよ、最大の課題は運動不足であることに間違いなく、十分に認識しているところです。「わかっちゃいるけど…」というのは、よくある話。自転車通勤やなるべく歩くようにしていますが、改善の余地が随分あるようです。

好きなお酒、食事を楽しみ続けるためにも、 健康には十分に気を付けます。 (山崎 裕行)

## 一部 では、 できません。 一部 できません。 一部 できました。

昨年の夏に放送されたドラマの影響をモロに 受け、11月に芦屋基地航空祭に行ってきました。

当日のプログラムを見てまず驚いたのが、7 時半開門、8時にはオープニングフライトがあるという、開始時間の早さ。自衛隊の方々は、朝から大変だなと思いました。

午後のブルーインパルスが目当てでしたので、無理せず9時半頃着で行くことに。

当日の朝、雨が降っていたのですが、基地に 着いた頃には、雨は上がっていました。

中の方に進むと、軽装甲機動車・花自動車体 験搭乗の行列ができており、軽装甲機動車の方 は人が多かったので、花自動車に乗ることに。 花自動車はトラックの荷台に乗るようになって いて、かわいいイラストと、名前の通り花でデ コレーションされています。そこへ登るための 離着式階段には、アンパンマンが描かれていま した。自衛隊とアンパンマンのミスマッチに、 ほんわかした気分になりました。花自動車は駐 機しているブルーインパルスや、他の航空機の 近くを通ってくれるので、近くで見たい方には オススメです。

その後、格納庫の所にまたしても行列を発見し、行ってみるとブルーインパルスのパイロットによるサイン会が行われていました。今回はサインを頂くような物を持っていなかったので断念しました。その横で航空機のコックピットを公開していたので、そちらに並ぶことに。1組ずつコックピットの高さまである階段を登り、中を見たり、隣で写真撮影をしました。コックピットの中に置いてあったパイロットの人形



ブルーインパルスの展示飛行。息のぴったり合った 飛行は感動します は、若干怖かったです。

ちょうどお昼頃から、天気も回復し、雲の間から青空が見えるようになってきて、観客も午前中に比べると多くなっていました。前年度の来場者数は約3万人だったそうですが、今回は翌日の新聞によると3万5千人だったそうです。でもこれは少ない方で、10万人超、20万人超の基地もあったそうです。

昼ご飯を食べ、エプロン(航空機を駐機する場所)前に移動し、午後からのF-15の飛行展示を見ました。この日は築城基地から飛んで来たそうで、所要時間5分だそうです。築城って近いのですね。F-15はさすが戦闘機という感じで、爆音がすごく、特に観客側にお尻を向けた時の爆音と振動に興奮して「おー、おー」言っていました。

そしていよいよお目当てのブルーインパルスの飛行展示。結局6番機と2番機が故障で飛べず、4機での飛行展示となりましたが、くるくると横転したり、ぎゅいんと急上昇や急降下をしたりと、ジェットコースター系が苦手な私からすると、正気の沙汰ではない飛行や、ぴったりと息のあった迫力ある飛行で、初めて見た私にとっては、充分すぎるぐらい感動ものでした。

飛行中アナウンスで、どちらの方向から進入し、どういう技をするかを説明してくれるのですが、私は聞こえにくい場所にいたので、アナウンスの内容はほとんどわからないまま。写真撮影では、右に左に上や後ろに飛んでいく飛行機に振り回されっぱなしでした。初めての方は、アナウンスが聞こえ易い場所がオススメです。

航空祭は基地ごとに飛行する航空機種が違う

のと、ブルーインパルスも天気によって演目が変わるそうなので、今年は芦屋だけでなく、他の基地にまで足を伸ばしてみたいです。朝早いですけど。 (佐伯 明日香)



幸せに暮らす集落 ~ 鹿児島県土喰集落の 人々と共に~ ジェフリー・S・アイリッシュ

昨年の11月30日、鹿児島大学農学部で農村 計画学会2013年秋期大会シンポジウムが催さ れた。私の大学時代の先輩である友清先生(前 工学部建築学科教授~昨年度退官)から、過疎 集落において九州で活性化に取り組んでいる事 例を報告して欲しいとの依頼を受け、これまで 機関紙「よかネット」で掲載してきた事例を中 心に報告させて頂いた。

南方新社

この大会では特別講演として鹿児島国際大学 経済学部准教授のジェフリー・S・アイリッシュ 氏が、1998年から8年間住んだ土喰集落の暮ら しについて話をされた。

土喰集落は、鹿児島県現南九州市の山間部にあり、人口28人、高齢化率86%、平均年齢76歳の集落である。ちなみに土喰とは、土を食べないと生きていけないといった意味ではなく、「食べられるほどいい土があり、良い作物が収穫できる」ということらしい。

ジェフリー氏は、外国人でありながら実際に 集落に住み着き、組合長を2回も務めた経験を もとに、集落内の一人ひとりの暮らしぶりにつ いて、生き生きと語ってくれた。

ジェフリーさんの話の中で特に感銘をうけた 話をご紹介したい。

- ①土喰では、地域住民がお互いに見守っており、 瞬間的な物々交換ではなく、一生を通しての 物々交換であり、お互い様の世界である。
- ②日本全体で人口が減っていく中で、過疎化していく集落がなくなっていくのはいたしかたのないこと。土喰でもこのままでは、10年

後は17人、20年後には5人となってしまい、 確実に集落が維持できなくなるであろう。し かし、集落を何とか活性化しようと躍起に なっても集落を維持していくのは困難だ。肝 心なのは、今住んでいる人々が最後の日まで 毎日を如何に大切に生きていけるかである。

③最近、日本人は"幸せな国"といってブータンを参考としているが、ブータンに行かなくても土喰に来れば、幸せな暮らしが分かるのではないか。

今、過疎集落において人口増、交流人口増を 希望しても、どこでも達成できるものでもない。 ジェフリー氏が言うように一人ひとりが最後 まで生き生きと住み慣れた地域で暮らしていけ ることの方が大切であろう。

この本は、土喰集落の日々の生活や田舎暮ら しを9年間にわたって南日本新聞に連載した「小 組合長日記」を再編集したものである。

この本を読むと、何気ない集落の暮らしぶりが綴られているのであるが、ジェフリー氏の暖かな眼差しが、いたるところにちりばめられていて、思わずこちらも微笑みがこぼれる。

最初から順序だって読む必要もなく、ちょっ と気になるところから読み始めてもよい。

山間部の過疎地の話ではあるが、今後、確実に人口減、高齢化が避けられない郊外住宅団地、あるいはマンション群が建ち並ぶ地域などにも参考になる本である。 (山田 龍雄)

# よかネット No. 113 2014.1

(編集・発行)

㈱よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号 福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

http://www.yokanet.com mail:info@yokanet.com

(ネットワーク会社)

㈱地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6942-5732 東京事務所 TEL 042-501-2531

名古屋事務所 TEL 052-202-1411

㈱地域計画・名古屋